

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

高齢者がん診療指針策定に必要な基盤整備に関する研究

研究分担者 長島文夫
杏林大学医学部 内科学腫瘍科 教授

研究分担者 小寺康弘
名古屋大学大学院医学系研究科 教授
(研究協力者 田中千恵)

研究分担者 安藤雄一
名古屋大学医学部附属病院 化学療法部 教授
(研究協力者 松岡歩)

研究分担者 中山健夫
京都大学大学院医学研究科 教授

研究分担者 小川朝生
国立研究開発法人国立がん研究センター先端医療開発センター
精神腫瘍学開発分野 分野長

研究分担者 濱口哲弥
埼玉医科大学国際医療センター 医学部消化器腫瘍科 教授

研究分担者 水谷友紀
国立研究開発法人国立がん研究センター
臨床研究支援部門データ管理部 外来研究員

研究分担者 津端由佳里
島根大学医学部附属病院 呼吸器・化学療法内科 講師

研究分担者 高橋昌宏
国立大学法人東北大学加齢医学研究所 臨床腫瘍学分野 助教

研究要旨 高齢者がん診療指針を用意し、本邦に必要な老年腫瘍学の基盤を整備するために次の内容について研究を進める。本年度は主として総論的事項について議論を行った。今後は、(Ⅰ)高齢者のがん診療における「身体機能評価、精神機能評価、社会的問題の評価、意思決定支援、老年症候群の扱い等」の総論的事項の整理を進め、エキスパートコンセンサスを得る、(Ⅱ)診療の考え方に関する情報を集約して行政等に提案し、幅広い意見交換のための土台とする、(Ⅲ)ガイドライン作成の行程を提案、を進めていく。

A. 研究目的

高齢がん患者の診療にあたっては、治療に対する意欲、身体的な側面(ADL 低下)、精神・神経(認知障害)、情動(うつ)、社会・経済的な側面まで検討したうえで、診療方針が決定されなければならない。すなわち、患者の包括的な評価とそれに基づく医療の実践に資する指針を必要とする。本研究では、これに応える臓器横断的かつ職種横断的な体制の構築を目指す。

具体的なプロジェクトとしては、(1)日本がんサポーターズケア学会による Q&A の作成および高齢者がん医療協議会(コンソーシアム)の設立<田村小班>、(2)高齢者のがん診療の考え方をまとめる<長島小班>である。

B. 研究方法

(1)日本がんサポーターズケア学会による Q&A の作成および高齢者がん医療協議会(コンソーシアム)の設立<田村小班>

概要

日本がんサポーターズケア学会では高齢者がん医療 Q&A を作成中である。このうち総論の一部を作成した。問いと解答、さらに解説を加えたものを作成し、査読(研究班協力者による)を行った。

(2)高齢者のがん診療の考え方をまとめる<長島小班>

概要

「高齢がん患者の診療指針(総論編)」として必要な項目を整理し、幅広い立場から受け入れられる内容を目指して、パネルを開催してまとめていく。パネルには小班メンバーや専門家の他、患者、メディア関係者などに参加いただく。

C. 研究結果

(1)日本がんサポーターズケア学会による Q&A の作成および高齢者がん医療協議会(コンソーシアム)の設立<田村小班>

高齢者がん医療 Q&A の具体的な問いと解答を以下に示す。

Q1:高齢者機能評価は実施すべきか?

A1:身体機能、併存症、抑うつ、認知機能、栄養などの生活機能障害に関連する脆弱性を

特定できる可能性があり、高齢者機能評価を行うことが望ましい。

Q2:高齢者機能評価では、どのような項目を評価すべきか?

A2:①身体機能、②転倒、③併存症、④うつ、⑤認知機能、⑥栄養等を評価することを提案する。具体的な評価ツールとして、海外のガイドラインが参考になる。

Q3:高齢者機能評価の結果を参考に、どのような介入を行うべきか?

A3:特定された問題に対して、重要性の高い項目を中心に多職種チームで介入する。その手段として、介護保険の活用を積極的に考慮する。

(2)高齢者のがん診療の考え方をまとめる<長島小班>

本年度は計 5 回の会議(ネット会議を含めて)を開催し、海外のガイドライン(NCCN や ASCO 等)の総論部分も参考に、日本における高齢者のがん診療の考え方について小班員で意見を交換した。「高齢がん患者の診療指針(総論編)」ver.0.1 を用意して、取り上げるべき項目の整理を試みた。(以下項目)

- ・疫学
- ・高齢者の定義
- ・高齢がん患者の特徴
- ・高齢がん患者医療の現状
- ・高齢がん患者診療の考え方(余命、意思決定能力、治療目的と患者の価値観、有害事象リスクの評価)
- ・老年症候群
- ・高齢者機能評価
- ・意思決定支援(アドバンス・ケア・プランニング)
- ・介護保険などの社会保障制度
- ・資源の配分(医療費や治療の手控え)など

今後はこの ver.0.1 を完成させ、患者・市民・メディア等を含む公開パネルを開催し、様々な立場からの意見を反映して社会の合意を形成していく方針である。

また、ガイドラインの構造や評価法、既存のガイドラインの有効な活用法など、現状と課題について研究分担者の中山先生から小班員へ情報共有いただいた。

2019年1月19日に高齢者がん医療協議会が設置され、参画する協力者の調整が可能となった。2019年3月16日に公開意見交換会が開催され、患者団体代表者、メディア等からなるパネリスト間で討論を行い、意見交換を行った。

D. 考察

高齢者のがんの診療指針を策定し、医療として普及させていくためには、がん対策推進基本計画にあるガイドラインの作成が重要な課題と考えられる。全国民が共有しやすい内容として、診療の考え方(総論)をまとめ、適切なプロセスを経て普及を推進することが重要である。

高齢者のがん診療における「身体機能評価、精神機能評価、社会的問題の評価、意思決定支援、老年症候群の扱い等」の総論的事項の整理を進め、エキスパートコンセンサスを得て、診療の考え方に関する情報を集約して行政等に提案し、幅広い意見交換のための土台とする。次年度は、行政経験者、老年医学等の専門家にも協力いただき、パネルを開催する。

本研究班では、研究や教育の視点でも老年腫瘍学の基盤整備を進めている。我々は、JCOG 高齢者研究委員会において、高齢者を対象とした臨床研究の支援を行ってきた。臨床研究に関連する勉強会も定期的に開催しており(2019年2月25日開催)、情報共有を行い、本邦に適した臨床研究体制の整備を推進していく。また、日本臨床腫瘍学会では教育部会のもと、老年腫瘍学ワーキンググループが立ち上がり、老年腫瘍学セミナーを開催し、多職種による参加者が知見を深めている。これらの活動とも情報を共有しながらプロジェクトを進めていく。

E. 結論

本邦に適した高齢者がん診療の考え方をまとめ、幅広い議論を行い、関連する学会やアカデミア等においても基盤整備を導入推進していくことが重要である。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

論文発表

1. 山内芳也,長島文夫,他.【高齢者における代謝栄養管理】高齢がん患者の機能評価. 外科と代謝・栄養. 2018; 52(1):17-22.
2. 小林敬明,長島文夫,他.【高齢者医療ハンドブック-高齢者医療におけるダイバーシティ

への対応】(第VIII章)高齢者のがん診療～実地医家の視点から～ 胃がん・大腸がん. 内科. 2018; 121(4):887-91.

3. 前野聡子,長島文夫.【診断と治療のABC[137]フレイル】(第3章)各種病態とフレイル がんとフレイル.最新医学. 2018;別冊(フレイル):107-12.
4. 前野聡子,長島文夫.【老年医学(上)-基礎・臨床研究の最新動向-】老年医学領域の高度医療・未来医療 高齢者のがん医療の進歩. 日本臨床.2018;76(増刊 5 老年医学(上)):255-9.
5. 黒澤貴志,長島文夫,他.【後期高齢者へのがん薬物治療】後期高齢者に対するがん薬物治療の問題点.臨床腫瘍プラクティス. 2018; 14(4):241-8.
6. 長島文夫,他.膵・胆道癌高齢患者に対する積極的抗癌治療. 膵・胆道癌 Frontier. 2018; 7(2):64-71.
7. 前野聡子,長島文夫,他.高齢者に対する大腸癌化学療法の実際.消化器・肝臓内科. 2019; 5(1):17-23.
8. 前野聡子,長島文夫.高齢がん診療のあり方 .Geriatric Neurosurgery.2019 ; 31 : 19-22.

学会発表

1. 長島文夫. 高齢者のがん患者を診療するにあたっての考え方(必要な情報). 第60回日本老年医学会学術集会シンポジウム22, 2018年6月16日, 京都.
2. 長島文夫,古瀬純司. Geriatric Oncology in Japan. 第60回日本臨床腫瘍学会学術集会 JSMO-SIOG シンポジウム, 2018年7月19日, 神戸.
3. 北村浩,長島文夫,他.Gemcitabine base の化学療法を行った高齢者膵がんにおける有害事象と高齢者機能評価について. 第3回日本がんサポーターケア学会 2018年8月31日,福岡.
4. 前野聡子,長島文夫,他.海外高齢者がん診療ガイドライン活用の工夫 - 認知症をもつがん患者の実地症例から- 第3回日本がんサポーターケア学会 2018年8月31日,福岡.
5. 北村浩,長島文夫,古瀬純司他. Cancer-Specific Geriatric Assessment を用いた高齢者膵癌化学療法の第II相試験,ポスター,日本癌治療学会,2018年10月18日,横浜.

市民公開講座

6. 長島文夫. “高齢者に抗がん剤は効果なし”は本当なのか？. 日本臨床腫瘍学会市民公開講座, 2018年6月24日, 大阪.
7. 長島文夫. 本当!? 「高齢者に抗がん剤は“効果なし?”」, ちゃやまちキャンサーフォーラム2018, 2018年10月27日, 大阪
8. 長島文夫. 高齢者のがん治療健康長寿講演会(三鷹市老人クラブ連合会), 2019年2月5日, 三鷹.
9. 長島文夫. みんなで支えるがん医療「超高齢社会とがん、杏林 CCRC 研究所の取り組み」, 杏林 CCRC フォーラム公開講演会, 2019年2月23日, 三鷹.

人材育成のための勉強会等

1. 長島文夫, 水谷友紀, 小川朝生, 濱口哲弥, 他. 「高齢者研究のエンドポイントを考える」, 平成30年度JCOG高齢者研究委員会勉強会, 2019年2月25日, 東京.

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。
3. その他
特記すべきことなし。